

# 学校プールにおける飛び込みによる障害事故 全事例

【事故発生年度：1983年度～2013年度(31年分)】

最終更新日 2015年6月25日

作成者 内田 良 (名古屋大学大学院教育発達科学研究科 准教授)

ウェブサイト「学校リスク研究所」 <http://www.dadala.net/>

事例ID	掲載年度	発生年度	学年	性別	保体／部活／体育祭等／特活／休憩等	障害種別	発生状況	障害の部位						備考	
								頭部	頸部	頭頸部 (頭部・頸部の両方またはその区別が困難)	胸腰部	末梢神経	歯牙		その他／不明
DV001	1985 (S60)	1983 (S58)	高1	女	保体	歯牙	当日の体育の授業は、水泳実習であった。本生徒は、プールに飛び込んだとき、目の痛みを感じたので、目をつむったため、水平に戻すのが遅れ、プールの底で口唇部を打ち、前歯を破打した。						○		
DV002	1985 (S60)	1983 (S58)	小6	男	保体	歯牙	水泳指導の評価が行われたあと、残り5分間、水の中での休憩時間になったとき、本児は後ろ空中回転をしながら水中に飛び込んだとき、足がすべってバランスを失い、前に倒れる形でプールサイドに前歯をぶつけ歯冠を破折した。						○		
DV003	1986 (S61)	1984 (S59)	中3	男	保体	精神	当日は3コースに分かれて3人ずつ飛び込むクロール泳法の指導が行われた。本生徒はスタートした際、四肢が曲がったエビ型飛び込みの状態で急角度で入水し(その距離約2m)、プールの底に頭部から激突した。教師はとっさに危険を察知し、すぐに飛び込んで助け上げ意識を確認したが、全身のしびれを訴えていた。救急車で、病院へ運び治療を続けるが、第5頸椎圧迫骨折、脊髄損傷により四肢の麻痺を残した。		○						
DV004	1986 (S61)	1984 (S59)	中3	男	保体	精神	プール指導で、入水前の準備運動を約5分間して入水した。ついで、全員にプールサイドより25mを自由型で3往復させた。この間約10分間で、続いて自由型・平泳ぎ、スタート・ターンの練習を個々にやらせていた。このときスタートの練習をしていた本生徒は、第1コーススタート台横のプールサイド(高さ11cm水深110cm)から飛び込んだがそのまま水中に沈んだ。そして沈んだままの本生徒が発見され、プールサイドに引き上げられ人工呼吸が行われた。心臓は動いているが呼吸はなく、仮死状態であったが、次第に回復し、救急車で病院へ移送した。以来2年余、頸髄損傷で両下肢の機能が全廃となった。なお、本生徒は遠くへ飛ぼうとしていたが、首は曲げていたように思うと証言しており、また、頭、顔には外傷はなく、水面で強打したか水底で打ったかは、断定できない。		○						水面の可能性

DV005	1986 (S61)	1984 (S59)	中3	男	特活	精神	学級登校日での水泳の際、生徒達は、水泳上の諸注意を受け、更衣後は待機するよう指示されていた。しかし、本生徒は、友達と2人でプールサイドに組立てられていたテント張り用の鉄柱(高さ1.65m)からプールに飛び込んだ。飛び込みの際に、本生徒は鉄柱の横棒にしゃがんだ姿勢のままで十分な跳躍もできず、ほぼ垂直に頭から入水し、水深1.1mのプールの底で下顎部付近を強打した。浮上して、足は動かさず腕だけをバタつかせていたの で、異常を感じ、引き揚げ、救急車で移送した。第5頸椎脱臼骨折、頸髄損傷のため、四肢、体幹運動及び知覚麻痺等が残った。	○								課外水泳
DV006	1986 (S61)	1984 (S59)	中3	女	部活	精神	水泳部の練習で、ほぼ練習項目が終わり、最後の飛び込み練習をしていたとき、本生徒は、頭が水に入った直後、肩・胸あたりが頭より前へのめりこんだようになった。直ちに病院へ移送し、第4・5頸椎亜脱臼、頸髄不全損傷の診断のもとに治療が行われたが、頭部に運動障害、左上肢に筋萎縮、筋力低下、知覚鈍麻等の障害が残った。	○								水面の可能性
DV007	1987 (S62)	1985 (S60)	小6	男	保体	脊柱	水泳指導で飛び込みの練習中、飛び込むタイミングを誤りやや手前に飛び込んだところ、頭部の上の方をプールの底に打ち、後頭部に激痛を訴えプールから上がってきた。直ちに病院に移送し受診、治療の結果、第5頸椎に自家腔骨片移植を受け、頭部可動域制限と体表手術創痕を残した。	○								
DV008	1987 (S62)	1985 (S60)	中2	女	保体	精神	水泳指導を受けている際、当生徒は泳げないグループに入ってビート板を使用して指導を受けていたが、友人がプールに飛び込むのを見て、自分も飛び込んでみたくなり、プールに飛び込んだ。そのときプールの底に頭部を打って第5頸椎圧迫骨折及び頸髄損傷をした。療養の結果、第5頸椎以下不全四肢麻痺等の障害を残し、独歩不能状態となった。	○								
DV009	1987 (S62)	1985 (S60)	中3	男	特活	精神	教師の笛の合図でプールに飛び込み、クロールの練習をしていた。飛び込みのとき、ほぼ90度に近い角度で飛び込み、プールの底で頭を打った。その瞬間「ふわっ」と言う感じで飛び込んだままの姿勢で浮き上がってきた。監視の教師がおかしいと思い引き上げたが、下半身の知覚がなく、手足も動かすことが出来なかった。救急車を呼び病院へ移送し治療を受けたが、頸髄損傷により両上肢両下肢の全廃状態であり、回復の見込がなくなった。	○							課外水泳	
DV010	1988 (S63)	1986 (S61)	小6	男	保体	精神	体育の時間プールで、逆飛び込みをして25mをクロールで泳ぐ練習中、飛び込んださい、そのまま6m先の水の中ほどに浮いていた。(小6男、障-神経(頸髄)1級)	○								
DV011	1988 (S63)	1986 (S61)	小6	男	保体	精神	体育の時間、教師指導のもとで、プールで水泳の練習をしていた。準備運動後一斉指導の泳法練習を行ったあと、終了前10分間プールで飛び込み練習中、プールの底で頭部を打撲した。(小6男、障-神経(頸髄)1級)	○								
DV012	1988 (S63)	1986 (S61)	小6	女	特活	精神	水泳クラブ活動時、プールで逆飛び込みの練習中、直角に近い状態で飛び込んだため、プールの底で、頭を打ち、頸と左肩の痛み、手足のしびれを訴えた。(小6女、障-神経1級)	○							クラブ	
DV013	1988 (S63)	1986 (S61)	中1	男	部活	精神	水泳部活動時、プールで、水泳練習のため、スタート台に立ち、プール(水深11cm)に飛び込んだ。やや手がさがり気味で飛び込み、プールの底面で頭部を強打した。外傷性頸髄損傷、第5頸椎圧迫骨折と診断され、頸椎固定の手術を受けた。(中1男、障-神経(頸髄)1級)	○								























DV166	2013 (H25)	2012 (H24)	高1	男	保体	脊柱	準備運動、補強運動後スタート台から25mクロールまたは平泳ぎで3本おおよぐことになった。本生徒は1コースより飛び込みのイメージをして飛び込んだが真下へ飛び込んだようになりプール底に頭を打ってしまう。	○								
DV167	2014 (H26)	2013 (H25)	中3	男	保体	精神	水泳の授業で、本生徒がプールサイドから飛び込みをした際、頭部をプールの底に強打した。	○								
DV168	2014 (H26)	2013 (H25)	高1	男	部活	精神	水泳部活動の開始前に水泳部員数名とプールサイドから飛び込んで遊んでいた。本生徒が両腕を斜め後ろにして飛び込んだ際、プール底に頭頂部を強打した。体の自由がきかなくなり溺れかけたため、他の水泳部員に引き上げられた。	○								
DV169	2014 (H26)	2013 (H25)	高2	男	部活	脊柱	水泳部活動中に、飛び込みの練習をしていたところ、入水時に深く入り過ぎ、頸椎圧迫骨折をした。	○								
								○	70	78	3		1	1	13	3
									151							
									169							

上記の事例は、学校管理下のプール活動において発生した「障害」の事件事例です。次の点に留意してください。

①事例は、(独)日本スポーツ振興センターがほぼ毎年発行している『学校の管理下の死亡・障害事例と事故防止の留意点』『学校の管理下の災害』から抽出したものです。

②「事故発生年度」というのは、厳密にいうと、(独)日本スポーツ振興センターから「見舞金」が支払われた年度です。したがって、見舞金の支払いが年度をまたぐ場合(たとえば、事故発生は12月で、障害の確定が翌年の5月の場合)には、「事故発生年度」は、実際に事故が発生した年度と一致しないことになります。

③「学年」は事故発生時点の学年です。

④「事故の概要」は、(独)日本スポーツ振興センターの報告をそのまま引用したものです。したがって、事故後の裁判等のなかで争われたこと、あるいは明らかにされたこととは、内容が異なる場合があります。

⑤いわゆる「事件」性の高い事例として解釈されうるものについても、ここではすべて用語上「事故」で統一しています。